

－ はじめに －

令和3年度は、前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響を受け、各施設では、各施設内で発生した感染者（全施設で職員16名、入所児童及び入園児26名）や濃厚接触者の対応に追われたほか、計画していた事業についても中止や見直しが相次いだ。こうした中、実施可能な事業については、感染防止を徹底しながら積極的に取り組み、事務局として開催の準備を進めてきた中国・四国ブロック母子生活支援施設研修会は、同研修会初のオンライン形式にて実施した。

新型コロナウイルス感染防止対策については、引き続き、日々の検温や手洗い消毒、マスクの着用等の実施はもとより、3密を避ける行動に意識して取り組むとともに、感染状況に応じて感染拡大地域への往来の制約などを行ったほか、国の補助金等を活用して、感染を防止するための衛生用品や備品等を購入するなどさらなる環境改善を図った。

愛童園では、小規模で家庭的な養育環境を備えた施設への移行を目指して、施設近隣の職員宿舎を分園型小規模グループケア施設に改修する工事を行い、8月からは男子児童が同施設での生活を開始した。また、これに引き続き、本館の改修工事も実施し、12月には本館施設においても小規模な養育環境が整った。

三里保育園では、保護者の利便性の向上や職員の業務の効率化を図るため、園児の登降園を管理するシステムや緊急情報等を保護者にプッシュ通知が可能な連絡システム等の導入を決め、2月からの試験稼働を経て、令和4年4月から本稼働を開始した。

近年、児童養護、母子生活支援施設、保育職場は厳しい雇用環境が続いており、人材の確保と育成は大きな課題となっている。法人情報については、前年度にリニューアルしたホームページを活用し発信に努めたほか、コロナ禍で集合研修の中止が多くなる中、関係機関主催のオンライン研修などに積極的に参加させ、職員の意識啓発、専門性の向上やステップアップのための支援に継続して取り組んだ。また、新たな人材として、職員採用試験を秋、冬に実施し、子供の家5名、愛童園2名、ちぐさ1名を正職員として採用した。

以下、高知県福祉事業財団5施設は、児童憲章や児童福祉法等の理念をふまえ、令和3年度に掲げた事業計画に次のとおり取り組んだ。